インスメタル

新「千葉工場」が本格稼働

レーザ切断、溶接・製缶を1カ所で

レーザ加工業のインスメタル（本社・千葉県浦安市鉄鋼通り、社長・福井英人氏）は千葉・土気地区に新「千葉工場・千葉営業所」を竣工し、10月2日から業務を開始した。これまで県内八街地区に点在していた千葉営業所・八街工場（レーザ切断拠点）およびレーザ溶接センター、製缶センターの3拠点を1カ所に移転・集約した。稼働開始後、順調に立ち上がったことからきょう23日、現地に関係者を招き竣工披露を兼ねた記念式典を催す。

レーザで厚板精密加工

新「千葉工場・千葉営業所」（千葉市緑区大野台1―5―3）は、千葉土気緑の森工業団地内の一角に取得した自社所有地約1万3400平方㍍に事務所と工場建屋を新設した。

新工場は長手方向が約60㍍、幅全長が63㍍の構内を1、2、3号棟に3区分した。

1号棟には新規設備として出力18KWの発振器（米IPG社製）を採用した小池酸素工業製の門型DBCファイバーレーザ切断機「FIBERTEX―75

小池酸素工業製18KW門型ファイバーレーザ切断機

18Zero」（DBCはデュアルビームコントロールの略）を導入。レール幅7・5㍍（有効切断幅6・25㍍）×レール長さ26・4㍍（有効切断長さ22・4㍍）の定盤には8幅材を横に2枚並べて敷けるので昼夜を問わず長時間連続スケジュール運転が可能だ。

母材置場には8×20サイズの厚板（普通鋼）をベース厚から40㍉まで常備する。

製品開発・生産・営業拠点「KOIKEテクノセンター」が同じ工業団地内に立地する。至便な地の利を生かし、今後は相互に情報交換や交流を重ねながら戦略的な協業・連携に取り組むこともあり得るだろう。

ちなみに今回、敷設したレーザ定盤架台は、インスメタルの製缶センターで製作したもの。将来性を見越して最大50㍍までレール延長できる仕様としてある。また、機動性を最大化するためレーザ定盤専用の荷役用片脚クレーンも設置してある。

溶接、製缶は3号棟で

2号棟は各種薄板とステンレスの加工ヤード。平板の二次元加工のほかパイプなどの三次元レーザ加工もここで行う。設備は二次元レーザ2台と三次元レーザ2台の計4台。全機とも旧千葉工場（八街）から移設した。

3号棟では、主に切断次工程である溶接および製作を手掛ける。レーザ溶接センターと製缶センターで保有していたレーザ&パンチプレス複合機、YAGレーザ溶接機のほか穴あけや折り曲げ、スポット溶接設備などがここに集約された。

新「千葉工場」構内（2、3号棟）

高出力DBCファイバーレーザの性能と同社が長年、蓄積した加工ノウハウを融合させ、板厚40㍉までをターゲットにガス溶断やプラズマ切断とは違った「レーザならではの厚板精密加工」技術の確立に挑戦する。

実は小池酸素工業のFA

（4面に続く）